

2025年度
事業報告書

自 2025年4月1日
至 2026年3月31日

1：小学校教師を対象とした「スタートブック」の配布

フラッグフットボールが持つ「すべての子どもが活躍できる」教育的理念を学校現場に広く普及させ、指導に不安を持つ教師を支援するため、フラッグフットボールの経験がない教師に向けた教材「フラッグフットボールスタートブック」を作成し、小学校教師および教育関係者へ向けて配布した。また、ホームページ上で公開した。冊子の「スタートブック」に関しては、1,000部を無償にて提供した。

これにより、未経験の教員でも質の高い体育授業を展開できる基盤が整い、学校現場における導入のハードルを下げることに貢献した。



教師向けスタートブック

2：小学生向け副読本「作戦ブック」およびフラッグの製作と寄贈

授業を受ける小学生が、フラッグフットボールを理解しやすくし、作戦を考えるプロセスを通じて「主体的・対話的で深い学び」を促進することをねらいとして、子ども用補助教材「作戦ブック」を製作し、103,000冊を全国の小学校へ寄贈した。

また、寄贈校700校のうち、450校については作戦ブックに加えて、用具（フラッグ）を40名分同梱した。また、主に小規模校を対象とした250校については用具（フラッグ）を20名分同梱した。なお、当事業は（一財）日本宝くじ協会の助成を受けて実施した。

本事業を通じて、全国の学校現場における資材不足の解消と、戦術的思考力・協働性を育成する学習環境の整備に大きく寄与した。



寄贈したフラッグが使用されている様子

3：さくせんコンクールの開催

体育授業における戦術的思考や対話的な学びの成果を可視化・評価し、その教育的価値を社会に発信するため、株式会社ファミリーマートの協賛により、「ファミリーマート presents フラッグフットボール『さくせんコンクール』」としてリニューアル開催した。全国の小学生から作戦図と体験作文を募集したところ、251の作戦の応募があった。審査の結果、3つの作戦を表彰した。

最優秀賞を受賞した佐賀市立大詫間小学校の取り組みは、TBS テレビ「news23」でも特集・放送され、多様な児童が輝けるフラッグフットボールの教育的魅力と実践事例を、教育関係者のみならず一般社会へも広く周知する成果を収めた。

4：世田谷区内小中学校への用具寄贈及び講師派遣

地域と連携した教育支援体制を構築し、児童生徒の体力向上と運動意欲の涵養を図るため、世田谷区市民活動支援事業により、東京都世田谷区内小中学校 10 校にフラッグフットボールのフラッグ・ボールの寄贈を行い、希望した学校には講師を派遣した。

本事業を通じて、地域の学校における継続的な体育指導体制の構築を支援し、教育現場の課題に直結した実践的なサポートを実現した。

5：子ども支援団体への用具寄贈

学校教育の枠を超え、多様な環境にある子どもたちにスポーツを通じた成長と自己肯定感向上の機会を提供するため、CBGM 子ども財団の助成により、全国の 20 の子どもを支援する団体へフラッグ・ボールの寄贈を行った。

本事業を通じて、スポーツに触れる機会の少ない子どもたちへの支援活動を強化し、

共生社会の実現に向けたフラッグフットボールの新たな教育的・社会的価値を示した。

6：イベントの開催および協力

指導者の指導力向上および、幅広い層への安全で教育的なスポーツ体験機会の創出を目指し、イベント、体験会、指導者講習会等の主催、共催、後援、協力を行った。

○主なイベント

- ・ 学校への講師派遣（秦野市立北小学校、中央区立泰明小学校）
- ・ 教員講習会への講師派遣（千葉県教育研究会・松戸支会中学校体育部会）
- ・ ハドルボウル 2026（大学 OB 等）
- ・ あいちトップアスリートアカデミー2025 ジュニア合宿（フラッグフットボール）指導（愛知県教育委員会主催）

以上の取り組みにより、各教育委員会や学校関係者とのネットワークを強化し、次世代の指導者育成と、フラッグフットボールの教育的意義に対する理解を促進した。

7：用具の認定

安全で適切な教育環境を担保するため、各メーカーが販売するフラッグ、ボールの認定を行い、教育現場が安心して使用できる用具の基準を示し、安全確保に寄与した。

8：WEBサイトおよびSNSの運営

フラッグフットボールの教育的価値や最新の普及活動を迅速に発信するため、WEB サイトや SNS、プレスリリースによって最新情報やニュースの発信を行い、全国の教育関係者等への継続的な情報提供チャネルを確保した。

9：フラッグフットボールに関する取材や問い合わせの対応

メディア等を通じてフラッグフットボールの理念を正しく啓発するため、新聞などの広報誌の取材や各種問い合わせに対応し、フラッグフットボールについての情報、協会の活動についての情報を提供した。これによって、フラッグフットボールの社会的な認知度と信頼性の向上に貢献した。

10：役員等への情報共有を通じたモニタリング機能の強化

当協会の事業が多角化する中、理事会および監事による業務執行の監督機能を実効的なものとするため、事務局から役員に対し、学校現場への寄贈実績や教育委員会等との連携状況といった詳細な事業データを適時に提供・共有している。これにより、組織運営の透明性を高め、役員間で事業目的の達成に向けた活発な議論が行える体制を構築した。

以上